

市民との共栄めざして「里海の会」設立

はまなこ里海の会・理事長（JF浜名専務理事）^{うちやまひさお}内山尚夫さん

インタビュー・構成 中島 満



●プロフィール

はまなこ里海の会 平成19年5月に、静岡県のJF浜名の組合員が中心になって「特定非営利活動法人」（NPO法人）「はまなこ里海の会」が設立され、同年8月には、政令指定都市になったばかりの浜松市の認可をうけ、同JFの専務理事内山尚夫氏が同会理事長に就任した。同会の目的は、ひろく市民に浜名湖や遠州灘の漁業生産や、自然環境の豊かさ、大切さをPRし、水産資源保護活動や体験教室などの環境教育の実践活動を通じて地域と産業の活性化と市民との共栄を目指そうというもので、沿岸域の里海づくり施策の積極的な取り組みとして注目されている。



○お話を伺ったかたがた

内山尚夫さん（はまなこ里海の会・理事長）〔JF浜名専務理事〕（うちやまひさお）

鈴木邦夫さん（同会・副理事長）〔静岡県指導漁業士・妙将丸〕（すずきくにお）

白柳英明さん（同会・理事）〔静岡県漁業士会副会長〕（しらやなぎつねあき）

鈴木庄司さん（同会・理事）〔浜名漁協・元採貝組合連合会会長〕（すずきしょうじ）

窪田茂樹さん（同会・事務局長）〔南伊豆海洋生物研究会事務局長・自然公園指導員〕（くぼたしげき）

関いずみさん（オブザーバー）（海とくらし研究

所代表) (せきいずみ)

内山理事長 J F 浜名は、浜名湖の湖内漁



【リード】地区 J F の所属組合員と地域住民とが、ともに協力し合いながら、沿岸域の里海づくりを目指そうという取り組みが各地で起こり始めています。今回は、昨年 8 月に設立認可された「特定非営利活動法人 (N P O) はまなこ里海の会」が、行おうとしている市民と享受しながら地域と産業の活性化を図る事業とは、どのような取り組みなのかを、地区 J F 専務でもある同会、内山尚夫理事長はじめ、トラフグはえ縄漁業者である鈴木邦夫副理事長、県漁業士会副会長の白柳英明理事、元・採貝組合連合会長の鈴木庄司理事、地元市民グループ「舞阪の自然を守る会」所属で自然公園指導員の窪田茂樹事務局長らに、お話を伺いました。

県主導で N P O が設立

——まず、内山理事長から、浜名漁協の漁業の特徴、N P O 法人が設立されるにいたった経緯をお聞かせください。

業、遠州灘の外洋漁業という多様な業態の漁業者を擁する、正組合員 1 0 0 8 名 (准組合員 2 7 9 2 名) の、静岡県下でも有数の J F です。

漁業種類と水揚高は、平成 18 年度で、浜名湖の採貝漁業、ノリ・カキ養殖漁業、袋網漁業を主とする湖内漁業と、遠州灘を漁場とするシラス・タチ・アジ船曳網漁業、フグはえ縄漁業や刺し網、一本釣り漁業の外洋漁業などで、7 6 0 0 トン、41 億 1 5 0 0 万円となっています。

「里海の会」設立のきっかけは、県水産課から N P O 組織を立ち上げてみないかという提案でした。もともと、西伊豆の松崎というところで棚田のオーナー制度の試みがありまして、漁業者も、そうした市民に参加してもらって浜名湖周辺漁業をもっと知ってもらおう企画ができないかと、考えておりました。

水産課がまず企画したのは市民参加型漁業体験の「水産教室」を開こうと始まったのが、「浜名湖 “海の恵み” 探検隊」の企画でした。

初年度は企画会社に委託し、2年度からはJFが事業を受けて実施しました。

白柳理事 漁業士会では、十数年前から小学校の総合学習のお手伝いとして、会のメンバーが講師となって、学校に出前出張授業にでかけて、まったくのボランティアで、それを続けてきた経験もありました。

鈴木(邦) 副理事長 子供たちは、海の近くに住んでいても浜にでたり、漁業を知っている子供は少なくなりましたね。1時間かけてやりましたが、熱心に聴いてくれました。

内山理事長 2007年になって、「海の恵み探検隊」や「水産教室」のような市民参加型の試みを実施するNPO組織にする話がありまして、漁業士会の協力も得ながら、これまで経験してきたことを基にしてやってみようかということになりました。

やはり、JFが直接事業として受けるには、JF経営の性格上からもそぐわない面もあって、JFの事業とは切り離して、非営利のNPO法人で行うほうが、向いているのだと思います。

漁業者としては、自分たちでは難しいNPO組織の事業メニューづくりや認可申請などは県水産課が主導でやっていただ

きました。設立総会を経て「はまなこ里海の会」を立ち上げ、法人の認可を受けたのは8月になりました。

ことしの2月の総会で、事業計画をはじめ決定して正式な活動を始めることになります。

市民や観光組合も参加

——漁業者が中心のNPO組織は、まだ全国でも数少ない。「水産教室」のようなボランティア活動は、ほかにも経験があったのですか。

鈴木(邦) 副理事長 私は、トラフグはえ縄漁業をしています。遠州灘で本物の天然トラフグがとれるということをもっと地元でも知ってもらいたいと、数年前に館山寺温泉観光協会にも協力してもらって試食会やPR活動を展開し、地産地消につなげてきた経験も生きています。

私たち外洋漁業の漁業者にとっても、浜名湖の豊かな資源、たくさんの漁業養殖の形態を持ち続ける貴重な環境であることを、もっと知ってもらいたいと、漁業士会の活動や、こうした地産地消の取り組みを通じて考えてきました。

白柳理事 私は、袋網漁業や採貝業を湖内で営んできましたから、いま、鈴木(邦)

さんが言われたように、外洋でとれる魚たちが稚魚として育つ「海のゆりかご」としての浜名湖の最適な環境を守るためには、稚魚放流や漁場保全活動など漁業者だけの力では、効果が出ないこともわかってきました。

——湖内のアサリ採貝組合の活動が、全国青年女性漁業者交流大会で農林水産大臣省を受賞されたそうですね。

鈴木（庄）理事 浜名漁協採貝組合連合会会長をしておりましたとき、平成18年の大会で「浜名湖のアサリ資源回復への挑戦」として、アサリの稚貝に食害をもたらすツメタガイ駆除作戦を市民の協力も得ながら行いました。やはり、こうした活動を通して、自分たちの漁場は自分たちで守らなければいけないという共同意識が高まりました。

アサリの天敵であるツメタガイの卵塊を駆除する取り組みに市民にも参加してもらうイベントを、17年度に1回、18年度に2回、19年度に3回やりました。アサリの貝殻に穴があいている様子や、ツメタガイを水槽で見ってもらったり、海の中でアサリがどうやって大きくなり、食用の大きさに成長するのかを説明し、食害を起こすツメタガイの卵を駆除してもらいます。みんな浜名湖でこういうことが起きてい

ると驚いたり、浜名湖の漁業に興味を持ってくれたことは、大きな効果があったと思います。NPO設立で、これまで以上に、漁業者と市民との連携を深めていくことが大切だと思います。

——里海の会の役員構成メンバーを教えてください。

内山理事長 まず、理事長が私で、副理事長が鈴木（邦）さん。理事には、白柳さんと鈴木（庄）さんのほか合わせて漁業者6名が就きました。

市民の方は、「舞阪の自然を守る会」の方が2名、そのうち自然公園指導員もされ、伊豆で漁業者の協力もえながら海の保全活動もされている窪田茂樹さんには、事務局長をお願いしました。事業メニューづくりや、市民との交流のためのアイデアを実践に移していただきます。

館山寺温泉観光協会役員の方にも理事をお願いしました。幹事2名のうち1名は漁業者です。市民、地元観光協会との協力を得ながら、県水産課の指導を仰ぎ「里海の会」は運営されます。

アマモ観察会や体験漁業など

——事務局長の窪田さんは、市民として里海の会に、加わることの意義はどのように

お考えですか。

窪田事務局長 私は、浜名湖の近くに住んでおりましたが、実は、浜名湖については、水生生物や植物たちがこれだけ豊富に生態系を維持し続けていたことを、知りませんでした。それが、南伊豆の自然観察会を開催しながら、6年程前アマモの研究で知られる相生啓子先生（現・国際湿地保全連合顧問）について浜名湖のアマモ場調査をして、びっくりしました。

この浜名湖が、太平洋岸で1、2を誇る豊かなアマモ場を形成しているということを経験し、また教えられ、このアマモ場の存在を広く知ってもらい、保全活動をするためには、どうしても漁業者の皆さんの協力が必要でした。

白柳理事 浜名湖では、この藻場からモクトリといって藻を畑の肥料にしてきました。窪田さんがこられて、水産教室やアマモ場の観察会を積極的に開かれ、アサリ採貝業者には邪魔もののアマモ保護を漁業者に説いて回りました。「自分たち市民は漁業者が守ってくれた海で遊ばせてもらっている」と自分らに話します。

そうした、努力や誠意や情熱が信頼関係を築き、市民のかたがたとの交流のために、里海の会設立に協力してもらい、事務局長をお願いしたのです。

窪田事務局長 活動プランは、前年に引き続いて「浜名湖 “海の恵み” 探検隊」として「カキ剥き」イベントを実施するほか、トラフグ漁教室、アサリ・ツメタガイ教室、カキ養殖教室、袋網漁体験教室、浜名湖独特の突き魚遊漁のタキヤ漁教室などのほか、アマモ場観察会、稚魚放流事業のほか、修学旅行の誘致などを計画中です。

これからは、漁業者が、市民の人たちの海のリーダー役になって案内し楽しんでもらう「里海」の実現が、きっと漁業振興にも役立つと思います。

内山理事長 実際の「里海の会」の事業は今年の総会を経てからですが、ぜひ地域の漁業者や市民の理解を得ながら、「里海」という地域の活性化につながってほしいと思います。

（聞き手・構成 中島満）

◎エピローグ◎

NPO法人「はまなこ里海の会」のホームページから、その年参加が可能ないろいろな教室や観察会などのメニューがご覧になれます。:

<http://www4.tokai.or.jp/hamanakosatoumi/>

copyright 2008, manabooks-m. nakajima, & Hisao Uchiyama & JF-Kyousuiren

